



(財)財務会計基準機構会員
平成 20 年 4 月 11 日

各 位

会 社 名 株式会社ゴールドウイン
代表者名 取締役社長 西田 明 男
(コード番号 8 1 1 1 東証 1 部)
問 合 せ 先 取締役執行役員
管理本部長兼財務部長
二 川 清 人
TEL(03)3481-7203

平成 20 年 3 月期 特別損失の計上および業績予想の修正に関するお知らせ

平成 19 年 11 月 15 日に公表しました「特別損失の計上」および「平成 20 年 3 月期(平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日)通期の業績予想」を下記のとおり修正いたします。

記

1. 特別損失の計上

当社に内在する経営上のリスク要因を抽出し一括処理する方針に基づき、下記特別損失を計上しました。

- (1) 固定資産譲渡損
平成 20 年 3 月 10 日「固定資産の譲渡に関するお知らせ」として公表いたしました本社ビルの売却に伴う損失であります。
- (2) 関係会社株式評価損
一部の関係会社に対する投資有価証券の評価を見直し、投資簿価と評価額の差額を評価損計上いたしました。
- (3) 投資有価証券評価損
当社が保有する投資有価証券のうち、時価が著しく低下したものについて、投資有価証券評価損を計上いたしました。
- (4) 関係会社債権償却引当損等
業績の回復が遅れている関係会社および債権回収が長期化している関係会社等に対して、引当金を計上いたしました。
- (5) 特別退職金
人員体制の見直しによる早期退職募集に伴う特別加算金を計上いたしました。
- (6) 不採算事業からの撤退に伴う損失
不採算事業からの撤退に伴って発生する損失を計上いたしました。
- (7) ゴルフ会員権評価損
当社が保有するゴルフ会員権の評価を厳正に行った結果、簿価と評価額の差額を評価損計上いたしました。
- (8) 債務保証引当損
平成 19 年 12 月 25 日「連結子会社に対する訴訟の判決に関わるお知らせ」として公表いたしました債務保証履行請求に対し、所要の引当金を計上いたしました。

[主な特別損失の連結・個別に与える影響]

	連 結	個 別
(1) 固定資産譲渡損	4,500 百万円	4,500 百万円
(2) 関係会社株式評価損	-	340 百万円
(3) 投資有価証券評価損	30 百万円	30 百万円
(4) 関係会社債権償却引当損等	90 百万円	700 百万円
(5) 特別退職金	420 百万円	180 百万円
(6) 不採算事業からの撤退に伴う損失	240 百万円	240 百万円
(7) ゴルフ会員権評価損	60 百万円	60 百万円
(8) 債務保証引当損	370 百万円	-

2. 平成 20 年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想(A) (平成 19 年 11 月 15 日 発表)	47,100	1,000	500	300
今回修正予想(B)	45,400	1,900	100	6,100
増減額(B - A)	1,700	900	400	5,800
増減率(%)	3.6	-	80.0	-
前期(平成 19 年 3 月期)実績	45,808	1,188	1,123	848

(参考) 1 株当たり予想当期純利益(通期) 104 円 60 銭

3. 平成 20 年 3 月期通期個別業績予想数値の修正 (平成 19 年 4 月 1 日 ~ 平成 20 年 3 月 31 日)

(単位: 百万円、%)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前回発表予想(A) (平成 19 年 11 月 15 日 発表)	37,500	1,000	600	1,500
今回修正予想(B)	35,900	1,900	1,000	7,400
増減額(B - A)	1,600	900	400	5,900
増減率(%)	4.3	-	-	-
前期(平成 19 年 3 月期)実績	36,830	1,301	112	415

(参考) 1 株当たり予想当期純利益(通期) 126 円 89 銭

4. 理 由

売上高につきましては、アウトドアおよびウインター関連商品の販売がほぼ前回予想通りに推移したものの、アスレチックスタイル関連商品及びマリン関連商品の秋冬物店頭消化が当初予想を下回ったことにより前回予想を下回る見込みとなりました。

利益面では、主に上記の売上減少による売上総利益の減少と追加残品処理費用が発生したため営業利益、経常利益とも前回予想を下回る見込みとなりました。

当期純利益は、上記経常損失の増加に加え、第 1 項に記載しました固定資産譲渡損、特別退職金、不採算事業からの撤退に伴う損失等を特別損失に計上したことにより前回予想を大きく下回る見込みとなりました。

なお、期末有利子負債残高につきましては、前期比約 34 億円の減少となっております。

〔ご参考〕

1. 平成 21 年 3 月期連結及び個別業績予想 (平成 20 年 4 月 1 日 ~ 平成 21 年 3 月 31 日)

(1) 連結 (単位: 百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
平成 21 年 3 月期	46,000	500	2,000	2,500
対前年増減額	600	2,400	1,900	8,600

(2) 個別 (単位: 百万円)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
平成 21 年 3 月期	39,400	500	1,000	1,500
対前年増減額	3,500	2,400	2,000	8,900

2. 平成 21 年 3 月期業績予想の内容

平成 21 年 3 月期の予想に関しましては、中期経営計画の一環として下記内容の経営構造改革を平成 20 年 3 月期までに実施したこと等により、基礎収益力の抜本改善の実現が見込まれ上記収益が確保できる見通しです。

- | | |
|---------------|------------------------------------|
| (1) 人員体制の見直し | 110 人の人員削減を実行済みです |
| (2) 調達改革 | 調達原価率抜本削減、実需に基づく QR 生産体制確立による消化率向上 |
| (3) 不採算事業撤退 | コールマン、スロウフロー、ピクトリノックスの撤退実行済み |
| (4) バランスシート改革 | 本社ビル売却により有利子負債を削減する |
| (5) ロジスティック改革 | 在庫の総量抑制による物流コストを削減する |

また、上記経営合理化策と並行して、中期経営計画における成長戦略として下記の施策を実行中です。

- | | |
|--------------------|---|
| (1) ザ・ノース・フェイスブランド | アウトドア市場のリーディングブランドとしてさらに積極拡大する |
| (2) スピードブランド | 当社戦略ブランドとして経営資源を積極投入する方針です |
| (3) 海外戦略 | 韓国で展開中のアウトドアビジネスをさらに積極拡大し、欧州・中国のスキー市場におけるシェア拡大を追求する |
| (4) 新規チャネル開発 | ウェブ通信販売サイトや TV ショッピング等の新規チャネルを通じた販路拡大を積極推進する |

< 業績等の予想に関する注意事項 >

この資料に記載されております業績等の予想数字につきましては、現時点で得られた情報に基づいて算定しておりますが、実際の業績等は、当該予想と異なる場合があることをご承知おきください。

以 上